

政策評価シート（令和元～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

評価責任者	所属	経済局
	氏名	稲葉 光

政策	3 次世代へ自信を持って継承できる生産基盤の確保を推進します
政策の目的	<p>【条件不利地を抱える生産基盤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本市の農林業の多くは、小規模で生産性の低い土地で行われています。 ○生産基盤の整備、機械化による作業効率の向上が求められます。 ○東日本大震災以降、漁港施設の安全対策への関心が高まっています。

(1) 総合評価

評価	A：政策の目的が達成されている
理由	農林水産業者の安全性の確保や作業効率の向上に向け、農道や林道、漁港等の生産基盤の整備を推進した。成果指標については農道新設延長が「b」評価、林道路網密度が「a」評価となっているが、令和4年度末にはともに目標値に達する見込みである。また、台風等の自然災害による被害もあったが復旧に向けた速やかな対応ができたこと等から、政策の目的が達成されていると判断し「A」評価とした。

※【評価基準】 S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
農道新設延長 現状値：1,927m(2019) 目標値：2,705m(2022)	1,927m (2019)	2,705m	2,352m	87.0%	b	H25～H34年度までの農道開設計画に対して、過年度までの実績及び年度当初における計画延長に基づいた整備率としている。
林道路網密度 現状値：4.62m/ha(2019) 目標値：4.71m/ha(2022)	4.60m/ha	4.71m/ha	4.65m/ha	99.4%	a	H30年度末の林道延長466,211mにH31～R4の毎年の整備予定延長を積み上げて出したR4年度末の予定林道延長が477,679mであり、それを市内の民有林面積101,246haで除した数字（4.71m/ha）を目標値とした。
					—	

※【評価基準】 s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

○3次総期間中にも台風や大雨による被害があり、被害を最小限に抑える強靱な基盤づくりが求められている。減災に向けた漁港等の機能強化等を通じて、強靱な生産基盤の確保を推進していく。
--

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	効率的な農林業経営のための基盤整備		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策2	安心・安全な漁港・漁港海岸の整備		
総合評価結果	R元	R2	R3
	B	A	B

施策3	既存の生産基盤の安定的な運用		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

政策	3 次世代へ自信を持って継承できる生産基盤の確保を推進します
----	--------------------------------

施策	1 効率的な農林業経営のための基盤整備
----	---------------------

施策の目的	農道・水路等の農業生産基盤の整備を進め、農業生産性の向上と経営の合理化を図ります。
-------	---

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 農地整備課
	氏名	参与兼課長 小川雅弘

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	・県営土地改良事業に対する負担金及び補助金を遅滞なく交付し、県営畑地帯総合整備事業は、目標値を超える事業進捗であった。 ・農道の開設整備率については71.3%で、達成率は98.1%であった。 ・「林道路網密度」は、実績として4.61ha/mに林道が延伸され、目標を達成することが出来た。 以上により、農業生産基盤を整備する目的が達成され、総合評価をAとした。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	・県営土地改良事業に対する負担金及び補助金を遅滞なく交付し、県営畑地帯総合整備事業は、目標値を超える事業進捗であった。 ・農道の開設整備率については81.4%で、目標値を超える事業進捗であった。 ・「林道路網密度」は、実績として4.63ha/mに林道が延伸され、目標を達成することが出来た。 以上により、農業生産基盤を整備する目的が達成され、総合評価をAとした。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	・県営土地改良事業に対する負担金及び補助金を遅滞なく交付し、県営畑地帯総合整備事業は、目標値を超える事業進捗であった。 ・農道の開設整備率については87.0%で、目標値を超える事業進捗であった。 ・「林道路網密度」は、実績として4.65ha/mに林道が延伸され、目標を達成することが出来た。 以上により、農業生産基盤を整備する目的が達成され、総合評価をAとした。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	78.5%	78.5%	100.0%	a	
成果指標	県営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）進捗率	78.5% （令和元年度末）	2	79.5%	88.2%	110.9%	s	土地改良区（茂畑、加瀬沢、矢部、池ノ沢）における県営畑地帯総合整備事業の進捗率とする。 [外部要因の影響有り] 畑地帯総合整備事業の事業主体は県であるため、進捗状況については、県と情報を共有する。
			3	84.3%	89.4%	106.0%	s	
			4	87.4%	—	—	—	
			1	72.7%	71.3%	98.1%	a	
	農道開設整備率	319.2m(11.8%) （平成25年度）	2	79.0%	81.4%	103.0%	a	H25～H34年度までの農道開設計画に対して、過年度までの実績及び年度当初における計画延長に基づいた整備率としている。
			3	89.0%	87.0%	97.8%	a	
			4	100.0%	—	—	—	
			1	4.62m/ha	4.61m/ha	99.8%	a	
	林道路網密度	4.60m/ha （平成30年度）	2	4.65m/ha	4.63m/ha	99.6%	a	第3次総合計画（後期）における林道路網密度目標値4.71m/ha以上を設定
			3	4.68m/ha	4.65m/ha	99.4%	a	
			4	4.71m/ha	—	—	—	
			指標成果以外の					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
県営土地改良事業	①県が実施する事業に対して負担金を交付 ②土地改良区が負担する県事業の一部を補助	1	1	141,625	0	136,488	4.0	0.0	0.0	○
			2	170,134	0	179,984	4.0	0.0	0.0	
			3	237,666	0	157,588	4.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
農道等新設改良	①農道の新設工事又は改良工事を実施	2	1	137,021	12,254	127,251	5.0	0.0	1.0	○
			2	126,692	9,500	100,078	5.0	0.0	0.0	
			3	106,800	25,696	99,238	5.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
林道整備の推進	①道整備交付金による林道開設7路線の実施 ②林業専用道整備事業による林道開設1路線の実施 ③市単独事業による林道開設4路線の実施	3	1	348,412	0	237,168	4.0	0.2	1.0	○
			2	297,900	106,687	274,525	4.0		1.2	
			3	198,407	74,378	164,017	4.0		1.2	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	なし	—
令和2年度	なし	—
令和3年度	なし	—
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 水産漁港課
	氏名	課長 畠山 広明

政策	3 次世代へ自信を持って継承できる生産基盤の確保を推進します
----	--------------------------------

施策	2 安心・安全な漁港・漁港海岸の整備
----	--------------------

施策の目的	生産基盤の整備を行い、生産性の向上やコスト削減を図るなど、水産業の効率的な経営を図ります。漁港海岸の整備を行い、背後住民の安心・安全の向上を図ります。また、適切な維持管理・再整備を行い、次世代へ継承できる生産基盤を確保することを目的とします。
-------	---

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	令和元年度工事が遅れ年度内完成が不可能となったため、海岸保全施設の整備延長が伸びず、達成率が92%に留まった為。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、工事の年度内完成が不可能となり翌年度に繰越したが、目標値はほぼ達成した。
	令和3年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	令和3年度工事が次年度に繰越となったため、海岸保全施設の整備延長が伸びず、達成率が85%に留まった為。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率 (%)	評価	目標値の算出根拠
			1	78%	72%	92%	b	
レベル1地震・津波及び高潮への防波堤、防潮堤及び岸壁の整備率	66% (H30)	2	81%	80%	99%	a		
		3	95%	81%	85%	b		
		4	100%	—	—	—		
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
海岸保全施設整備事業	海岸保全施設（胸壁及び陸間）の整備	1	1	102,366	97,080	133,798	1.5	—	0.5	△
			2	121,500	64,780	115,260	1.5	—	—	
			3	81,200	70,625	69,746	1.5	—	—	
			4	—	—	—	1.5	—	—	
由比漁港津波避難施設整備事業	津波避難施設の整備	2	1	5,400	0	5,436	0.5	—	—	△
			2	120,000	0	0	0.5	—	—	
			3	—	120,000	117,549	0.5	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
用宗漁港橋梁耐震化事業	橋りょうの耐震化	3	1	—	—	—	—	—	—	—
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	工事実施にあたり、地元協議や地質等の現場条件への対応、受注生産品の納期などに不測の日時を要し、年度内完成が不可能となった。	設計条件：過年度工事の実績を参考に設計内容を検証し、工法や施工範囲を見直してから発注する。 受注生産品：聞取り等により、製造業者の稼働状況や能力（納期）を把握した上で発注する。 地元協議：継続工事ではあるが、年度ごとに漁協や地元住民への早期説明を実施し、理解を深める。
令和2年度	新型コロナ感染拡大の影響により、陸間及び避難タワー建設に伴うコンクリート製品の納期が大幅に遅れ、工事の年度内完成が不可能となった為、事業（海岸保全施設整備、津波避難施設整備）を翌年度に繰越している。	コロナ禍においても、できる限り計画的な工程管理を実行し、翌年度内に工事を完成させる。
令和3年度	漁協所管の工事支障物件の撤去・移設に不測の日時を要し、工事発注が遅れている。	漁協との調整は事業計画時から継続しているが、当時とは漁協の経営状況や事業計画にも変更が生じており、工事実施個所や施工時期の調整が必要となっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響による年度予算の減少もあり、事業期間を延長する予定である。
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野 2 農林水産

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 治山林道課
	氏名	参与兼課長 松浦正裕

政策 3 次世代へ自信を持って継承できる生産基盤の確保を推進します

施策 3 既存の生産基盤の安定的な運用

施策の目的 農林業の重要な生産基盤である農道・林道を効果的に整備し、及び維持管理をすることにより、農林業の振興を図ります。

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「農道の管理瑕疵による人身事故件数」は、農道の維持管理の実施により目標値を達成することができた。 「林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標値を達成することができた。 「林道の改良箇所数」は、目標値を下回りB評価となったが、これは事業年度毎で改良箇所や規模、内容が異なることに起因し箇所数が増減するものであり、実施した改良により林道機能は向上しているため、総合評価Aの構成要素は充足している。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「農道の管理瑕疵による人身事故件数」は、農道の維持管理の実施により目標値を達成することができた。 「林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標値を達成することができた。 「林道の改良箇所数」は、目標値を下回りD評価となったが、これは事業年度毎で改良箇所や規模、内容が異なることに起因し箇所数が増減するものであり、実施した改良により林道機能は向上しているため、総合評価Aの構成要素は充足している。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「農道の管理瑕疵による人身事故件数」は、農道の維持管理の実施により目標値を達成することができた。 「林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標値を達成することができた。 「林道の改良箇所数」は、目標値を下回りD評価となったが、これは事業年度毎で改良箇所や規模、内容が異なることに起因し箇所数が増減するものであり、実施した改良により林道機能の向上を図ることができた。3件の成果指標から総合評価Aの構成要素は充足している。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	2	3	4		
成果指標	農道の管理瑕疵による人身事故件数	0件 (平成30年度)	1	0件	0件	100.0%	a	農道を適正に管理していることを図る指標を管理瑕疵による人身事故の件数とし、指標が市民の生命に関わることであることから、0件を目標値として設定した。
			2	0件	0件	100.0%	a	
			3	0件	0件	100.0%	a	
			4	0件	—	—	—	
	林道の管理瑕疵による人身事故件数	0件 (平成30年度)	1	0件	0件	100%	a	林道を適正に管理していることを図る指標を管理瑕疵による人身事故の件数とし、指標が市民の生命に関わることであることから、0件を目標値として設定した。
			2	0件	0件	100%	a	
			3	0件	0件	100.0%	a	
			4	0件	—	—	—	
	林道の改良箇所数	29箇所 (平成30年度)	1	29箇所	25箇所	86.21%	b	過去3年間の実績（H30：29箇所、H29：27箇所、H28：33箇所） 【年間目標値】3年間の平均 29箇所 ※令和3年度以降の年間目標値20箇所（R1：25箇所、R2：15箇所）
			2	29箇所	15箇所	51.72%	d	
			3	20箇所	8箇所	40.00%	d	
			4	20箇所	—	—	—	
指標成果以外の	—							

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
農道の維持管理	【農道】 ①農道等における安全な通行を確保するための維持管理を実施	1	1	36,511	0	36,511	4.0	1.0	0.0	○
			2	59,697	0	58,852	5.0	0.0	0.0	
			3	63,301	0	63,002	5.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
林道の維持管理	①林道10路線の管理業務の実施 ②林道の修繕及び崩土処理の実施 ③林道賠償責任保険の加入47.9km	2	1	150,327	71,370	145,593	3.5	0.5	0.0	◎
			2	149,597	0	106,733	3.5	0.5		
			3	167,519	20,070	174,168	3.5	0.5		
			4	—	—	—	—	—	—	
林道の整備	【林道】 ①林道の改良工事8箇所の実施	3	1	236,200	0	195,938	3.0	0.2	0.0	○
			2	200,275	35,683	158,252	3.0	0.2		
			3	320,469	42,320	233,249	3.0	0.2		
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	なし	—
令和2年度	開設からの年数経過による施設の老朽化により、林道改良の要望が多く寄せられるが、人件費及び資材費の上昇により、1箇所当たりの対策費用が増加している。	要望への対応及び施設規模の拡大については、予算の拡充が望まれるが、箇所数を減じ、1箇所あたりの工事費を増額する。【29箇所⇒20箇所】
令和3年度	近年、集中豪雨等により、林道構造物への影響が大きく、1箇所当たりの対策費用が増加している。	予算の拡充が望まれるが、予算内で林業の施業状況等による優先順位により効果的に林道機能を確保するため、工事規模等を勘案し目標値を見直す。【20箇所⇒11箇所】
令和4年度	—	—